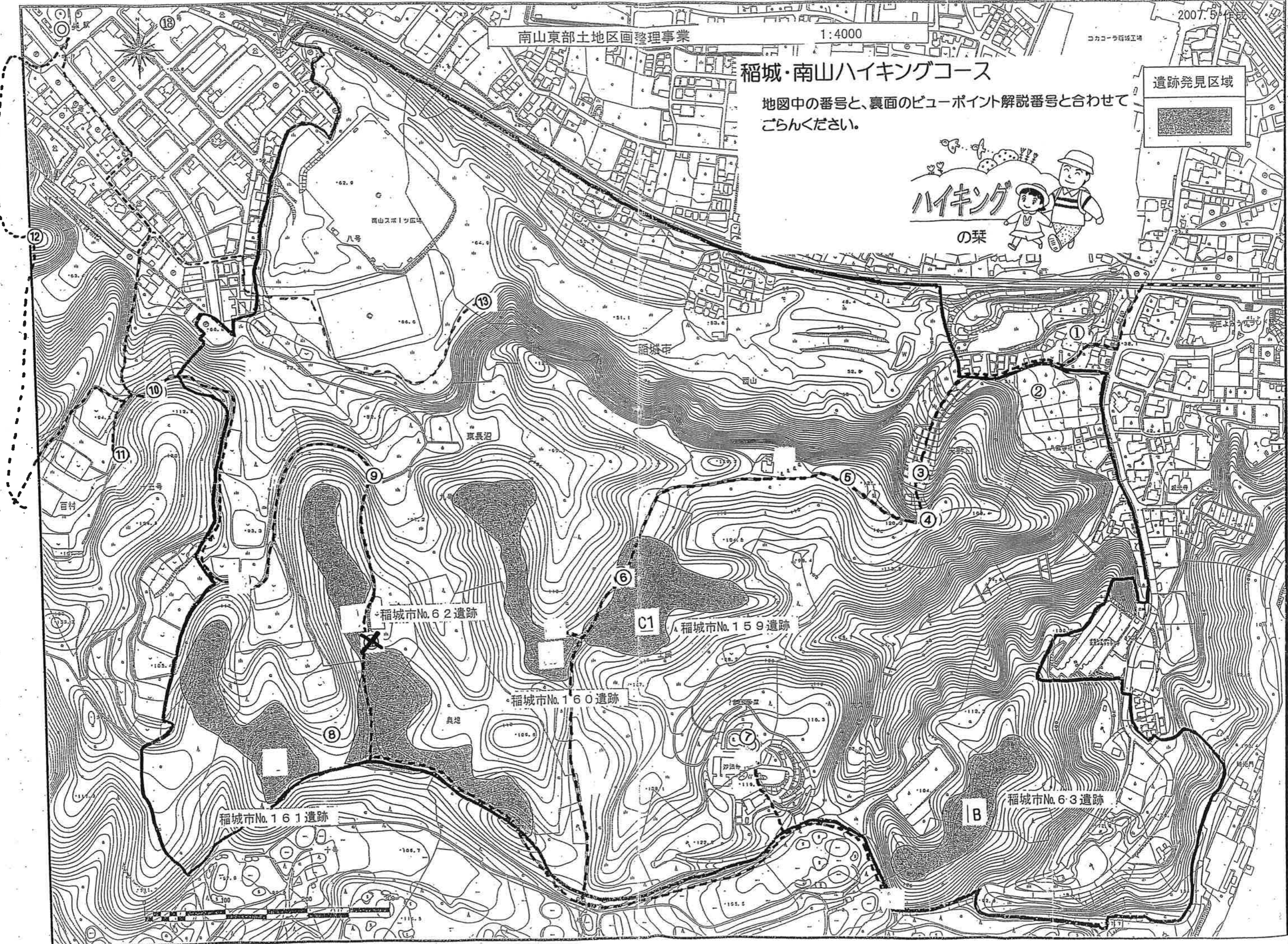
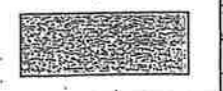


稲城・南山ハイキングコース

地図中の番号と、裏面のビューポイント解説番号と合わせて
ごらんください。

遺跡発見区域



稲城市No.62遺跡

稲城市No.159遺跡

稲城市No.160遺跡

稲城市No.161遺跡

稲城市No.63遺跡

C1

B

南山ハイキング・ビューポイント

- ① 妙見寺 鎌倉の建長寺の末寺の古刹です。参道には初夏のあじさい、秋の彼岸花、春には境内の梅と、「花寺」として有名です。作家の井上靖も「春寒し観音の寺梅の花」の句を詠んでいます。境内の石段を登ったところに「板碑」(中世の石板でつくった塔婆)があります。稲城市内最大のものです。
- ② 小沢蔵屋敷跡(小沢城跡) 南山の東隣りに、鎌倉時代の「小沢城跡」があります。川崎市分は、市が買収して緑地保全地域になっていますが、稲城市分は、現在(株)よみうりランドが開発しています。その城主の蔵屋敷跡が、妙見寺の隣地、南山の入口にあります。
- ③ ありがた山 約4千体の、江戸、大正に遊ぶ墓石、石仏が斜面に並びます。武家の五輪塔、宝しよう印塔、舟形墓石、地藏墓など、墓石文化が刻む「文化財」です。1940年頃、宗教法入「日徳海」の人々が、東京駒込界隈の関東大震災で無縁仏になった墓石、石仏を運んで吊ったものです。大八車に積んで「ありがたやありがたや」と唱えながら運んだことから「ありがた山」と呼ばれるようになったそうです。区画整理では、保全どころか、単なる石くれ扱いの運命です。
- ④ 南山は鎌倉・戦国時代の軍事拠点 小沢城は、鎌倉初期の山城跡で、鎌倉幕府の北の砦(防衛線)でした。室町、戦国時代にも幾多の激戦が伝えられる「つわものどもの夢の跡」です。亀山城(稲城駅前)に連なる南山も重要な軍事拠点の役割を担っていたはずです。
- ⑤ 調布市「深大寺城跡」が、多摩川を挟む「小沢城」帯」と対峙した重要な軍事拠点という理由で、昨年「国指定文化財」に認可されました。
- ⑥ 南山の代表的な植相 クヌギ、コナラ、イヌシジ、ヤマザクラを見分ける。
- ⑦ 埋蔵文化財発掘調査 C1 地区 南山は、縄文時代を中心に、埋蔵文化財の宝庫です。現在、調査のため樹木が伐採され、発掘調査のため掘り起こされています。本格調査が終了した C1 地区だけで、旧石器時代(2万年前)の礫群4基、

⑧ 南山ガケ物器(稲城グラブキヤニオン=新東京名所)
一危険崖?いえいえ、なかなかのスケルムもの!—私たちの住んでいる大地の歴史を考え、知る絶好の観察の場所です。



稲城南山のガケは横幅約600メートル、高さは約60メートル。人工ガケです。約40年前、東京オリビックの関連工事で建設用砂として掘削されたあとです。遠く離れた位置から見るとむき出しの地肌が切り立った異様な風景ですが、近くに来て見ると、都内とは思えないスケールの大きい景観が展開します。風にそよぐ草木の音、鳥のさえずりだけが聞こえる静寂な別天地です。—ここは、太古には海岸・渚でした。当時の河口の三角州で堆積してきたのが「稲城砂層」です。60—80メートルの厚さがあります。

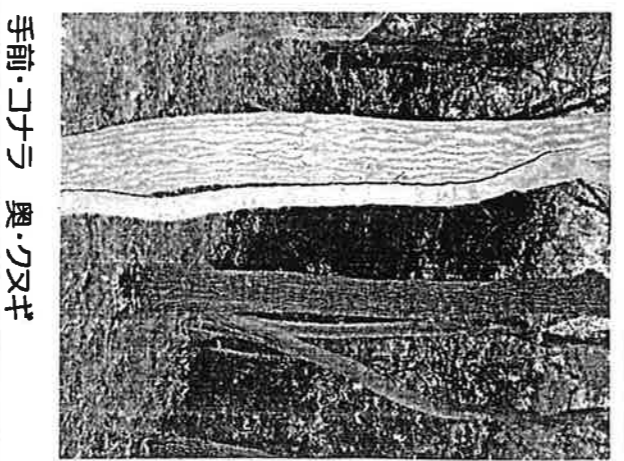
200年以上以上かけて圧縮された稲城砂層は、簡単に崩壊しませんが、開発で崩し谷を埋めたりすると粒子がバラバラになり、地震と大雨で液状化を起し大崩壊の危険が指摘されています。ほんとうに危険な箇所は保全擁護して、稲城の太古を知るシンボルとして残さないでしようか。

縄文時代土坑(獣を捕る落とし穴)97基、古代住居跡7基、掘立柱建物(高床式倉庫?)7基など貴重な遺構が多数発見されています。約2万年~5千年前の人々の暮らしが、こんな身近にあったことに歴史のロマンを感じます。縄文時代は、人類の歴史の中で、戦争がなかった時代、女性と高齢者が尊重された時代、自然と人とが共生していた時代と言われ今見直されています。南山縄文の森として現地保存したいものです。

- ⑦ 日本山妙法寺(昼食休憩、交流の集い) 20年前に南山に造られた寺院です。みごとな仏舎利塔があります。5月の「花祭り」の稚児行列には地元幼稚園の子供達がたくさん参加します。黄色い袈裟を着て、ウチウ太鼓をたいて、平和運動に熱心に取り組む僧侶の姿をご存知の人も多いのでは?
- ⑧ ⑨ 奥畑谷戸 典型的な里山の風景 見えるのは、里山の緑、真っ青な空、谷戸の畑だけ...電線も鉄塔もビルの姿もありません。昔話にでてくる、お爺さん、お婆さん、兎、狸の世界です。白神山地ブナ林のような大自然ではなく、人々の手で、新造林、農用地として守られてきた二次林です。
- ⑩ 鎌倉道 切りとおしがその特徴です。鎌倉時代、関東武士が「いざ鎌倉!」とはせ参じたもののふの道です。
- ⑪ 内田さんちの山 南山里山保全に取り組んでいる地権者の「内田さんちの山」をお借りして「ネギ・ジャム」をします。「目を閉じると虫、野鳥、風の音...いっつ聞こえましたか?」—五感を研ぎ澄ませます。12月28日、内田さんが主宰する「稲城里山元気塾」で、「収穫野菜で鍋パーティー」が開かれます。里山保全=安心安全の地元野菜=都市農業振興の三位一体を目指します。
- ⑫ 妙見尊 寛文二年(1662年)から340年続いている、七夕に行なわれる「蛇焚の行事」が有名です。石段の上の鳥居をくぐった広場に、カヤで編んだ大蛇の頭があり、胴たいは急な石段沿いに本殿まで続いています。頭の左手にカヤを刈る「村の共有地=カヤ刈」があります。

里山の代表的植相

里山の代表的植相は、コナラ、クヌギ、イヌシジ、ヤマザクラなど落葉樹です。南山の樹種はこの4種類が代表格で、その見分け方を知りたいだけで、散策の楽しさが倍増します。クヌギ、コナラ、イヌシジは樹皮で見分けます。*コナラ=樹皮は灰色で、割れ目はだてに長く、不規則です。
*クヌギ=樹皮は黒く、かさぶた状です。*イヌシジ=樹皮は灰色、すべすべ、だてに白い筋があります。



手前・コナラ 奥・クヌギ

オオタカの生息区域—営巣、子育ても



今年8月に観察されたオオタカの幼鳥

組合のオオタカ調査報告書(株・緑化研究所)は、「営巣、子育ては計画地区外」としていますが、信じられるでしょうか?今年8月に開発地区内で、二度にわたって、オオタカの幼鳥が発見されています。